

# 2023-24 年度理事通信第一号 速報版

## ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

2023 年 7 月 17 日 東日本区理事 山田公平

### ワイズに変化を

今期の東日本区のワイズ運動に変化を生み出ませんか？

一メンバーとして、クラブとして、できることを一緒にしていきましょう！

ワイズにどんな変化が必要か、何に関心があるか、それぞれの想いや願いに応じて、ワイズの一員として自分にできること、やってみたいことに取り組んでください。そんな形でこの 1 年でやってみましょう。それがワイズに変化を生み出すことになるでしょう。

この 1 年で私が目標にしたいことを紹介します。第 1 の目標として、ぜひ取り組みたいことはユースアクションの拡がりをもたらすことです。

理事主題として挙げた言葉は、

**未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！**

これは一体何を言いたいのかと思われるでしょう。ユースは、高校生から 35 才位までの人たちを指していますが、この世代は、学校、進学、部活、就職、そして仕事に入れば、競争の中で切磋琢磨を求められています。一方、いわゆる Z 世代と言われる高校生ぐらいから 25 歳ぐらいまでの人たちは、進学や仕事での成功も大切ですが、何か意味のあることに関心を示す、実行するタイプの人たちが多い世代と言われています。昨年の 4 月から今年の 1 月まで、ワイズと YMCA が協働で始めた第 1 回ユースアクションは、この世代の人たち自身に何ができるかを考えてもらい、それを実施できる機会を提供するというものでした。助成金を出すことで、何か社会のためにやりたいことを考え始め、それが様々な取り組みを生み出してきたと言えます。その活動報告を聴いて感じるものが私の示している理事主題の言葉です。まさにユースアクションの目的は、この若い世代の人たちが達成感と今までとは違った心の喜び（満足感）を感じたことではないでしょうか。

ワイズや YMCA には、「未来のために今、学びと気づきを！」を提供できているかが問われます。そして若者自身が何か社会のために取り組みながら、「未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！」ということを感じたか問われています。彼らの報告やどの言葉や表情を通して確かに手ごたえを感じ、今までにない他者のために役だっている自分の新しい達成感、喜びに出合った体験になったのだと感ずることができました。この感覚をユースの言葉や表現から感じられるかがユースアクションの評価のポイントだと思います。

## 今年度（2023-24 年度）の具体的目標

ここでは今年度のワイズ東日本区でやってみたい8項目の具体的目標を挙げています。これを読んで、ワイズの一員として個人的にやってみたいことがありますでしょうか？ほかのクラブの人たちと一緒に、あるいはクラブの目標としてやろうということになれば、ワイズに新しい力と意味を生み出すことになります。ご検討ください。もちろん、各クラブで目標を挙げて、自ら取り組んでももらいたいと願っています。これらの8つの目標は、今年度の理事の願いであり、これから一つひとつの目標にどう向かっていくか、検討をし、皆さんの参画を求めていますと願っています。

### 目標1. ユースアクションをワイズの看板に

今年は秋（9月—11月）にオリエンテーションや社会問題を考える研修会をしようと考えています。募集要項などをその時に発表しようと思います。来春（2024年1月—2月）にプロジェクト募集をし、実際のアクションが始まるのは来年の学校年度が始まる4月か5月からとなるでしょう。東西日本区協働で行うことになるので、昨年同様に全国で10のプロジェクトを選考することになります。昨年は、10プロジェクトに助成金を提供しました。このプロジェクトは主に2024年5月から-25年度2月までの実施ということになってきますが、その準備段階を今年度に行いますのでワイズの年度にすると2年がかりのプロジェクトになります。YMCAのユースだけに限らず、学校や他の団体のユースのグループも助成対象になります。

### 目標2. 東日本区独自のユースアクションの展開を

2024年度は、特別に数か所のユースアクションを東日本区で独自に行います。北海道部には3つのクラブがありますが、その中でいくつかのクラブとYMCAでユースアクションに取り組みたいと計画しています。参加するユースの変化や喜びを少しでも多くの地域で感じてもらいたいのです。2024年6月1日は東日本区大会を北海道帯広で行います。その時の目玉としてユースアクション北海道版の報告と協議をしてもらいたいのです。また、学生YMCA、通称「学Y」との関係も強化できればと考えています。ユースアクションを通して学Yとの関係を築きあげるきっかけになることを望んでいます。

### 目標3. 福島県と長野県にYMCAを

福島県や長野県にはYMCAがありません。長野クラブは、「長野にYMCAを」という願いを持ち2010年に設立されました。今ワイズがある長野市や松本市でYMCA運動を興す、そんな働きを支えるワイズを強化するという当初の目的を、この年に目指せないか検討をしようということです。YMCAをといても、会館を持つことや専属のスタッフを置くということではなく、富士山部で独自に行っていることも参考にしながら、地域のニーズを知ったうえで運動を興していくというのはどうでしょうか。それは富士山部の多くのワイズがしているように子どもたちの活

動の場作りかも知れません。松本クラブでは、留学生を支援する場として日本語スピーチコンテストを続けてきました。この延長の活動も考えられます。あるいは障がいを持つ人たちへの支援の場かも知れません。この地域のクラブ、知り合いのいる方、関心のある方に呼び掛け、一緒に話し合い、地元の関心を生み出す講演会や話し合いの機会を設けていきます。2年3年かけて徐々に進めるのはどうでしょうか。かつては新潟にもYMCAをという願いがあり、ワイズが結成されたこともありました。可能性があれば、各地に広げることも検討したいところです。

## 目標4. クラブライフを楽しく、意味あるものにしていくとは何か？

それぞれのクラブでクラブライフをさらに楽しくする、クラブのカラーを見出していく、クラブが目指すものを分かりやすくする、そしてそこに人を誘えるようにする、それがクラブライフをより良くする発想の原点かも知れません。「それをするために何ができるか」を考え実行する一年にしたいと思います。クラブの人たちが集まり、話し合い、実行していく、そんな取り組みをやってみませんか？例えば、3か月に1回でも面白いテーマで講演会を実施する。そのために、小さいクラブだけではなく、近隣のクラブと合同例会にして、講演会を実施し、そこからこの1年にできることを検討していくのはいかがでしょうか。

## 目標5. 地域での活動、国内での活動を充実したものにするため

今年の目標の中に、ユースアクション、ワイズのエクステンション、クラブライフの充実への取り組み、ユースインターン制度(iGo)、あるいは国内外のクラブとの交流や応援など、ワイズの活動をより良く、より意味のある形にするためには資金が必要です。資金集めをしっかりとる、献金の在り方も見直す。支えたい活動やクラブで取り組みたい活動があれば、それに必要な資金を集める工夫をしていくことが大切です。応援できるところに資金面で応援するという活動です。ユースアクションはその典型的な例です。それを可能にする仕組みをクラブで考える、さらには今までしてきた献金活動をもう一度見直し、クラブライフをより意味あるものにしていきましょう。資金集めの充実がクラブ単位で、地域で、YMCAとの協働事業で、さらには全国で展開する活動のために必要となります。これまでの献金制度も含め、協議を進めていきたいと考えています。

## 目標6. 国際・交流活動の具体的展開の一步を

ワイズの国際活動にはBF（訪問を通してのフェロシップを）、TOF（貧困などの解消プロジェクトを支える）、交流活動としてIBC（海外のクラブと関係強化）などがあります。この国際的関係をより身近に感じる形になる仕組みを作る必要を感じています。例えば、ある特定の国のクラブYMCAと組んで一緒にTOF（Time of Fast）のプロジェクトを作り、そのクラブやYMCAとBF（Building Fellowship）で人の派遣や現地のワイズメンを招いたりもできます。それがIBC（International Brother Club）となって交流や協力を継続的にすることもできます。国際活動はワ

イズの特徴となりうる活動ですが、世界的組織としての特典を日本のワイズの人たちが身近に感じる仕組みを作れないでしょうか？

## 目標7. iGo（ユースのインターンシップ）を国内で始める工夫を

iGo というプログラムは、Internship for Global Outreach の略で世界に羽ばたき、活動したいユースのインターン制度です。これは、ユースが1か月程度海外のYMCA 活動などにインターンとして送り出す制度です。そんな希望をもつユースを支えるのがワイズの役割となります。今年度は、この制度をまずは国内でできないかと考えています。例えば高校生や大学生の夏休みを利用して、北海道で酪農体験を数週間したり、YMCA の保育園や老人ホームでの実習体験を提供するなどが考えられます。国内のワイズ（DBC）やYMCA の関係の中で、その可能性を探ってみる1年にしたいと思います。このプログラムこそ、ワイズとYMCA ができる協働事業になるのではないのでしょうか。実習を受け入れる地域のクラブは、実習生のホームステイ、例会への招待など、実習中のユースを支えることになります。DBC クラブ同士の交流にもつながるのではないのでしょうか。

## 目標8. 将来のワイズを一緒に考え、話し合い、提案していきませんか？

将来構想検討会（仮称）というチームを設け、ワイズのこれからの区、部、各クラブの在り方、10年後にはこうなってほしいというビジョン、中長期的目標や計画、そしてそのための戦略を提案していくことになります。ワイズの強みや弱みを見極め、そこから将来ビジョンを描いていきます。10年後のワイズ運動はこうありたいと思う人たちで、ワイズ歴など問いません。より良い東日本区を目指していきたいと思う人はぜひこのチームにご参加ください。この7月中旬に募集受付をします。まとめ役は、ワイズの経験豊かな田中博之ワイズです。来年6月に行われる年次代議員会、東日本区大会を当面のターゲットとして活動していく予定です。

## 具体的ななかかわり方とかかわり方に関する相談

**目標1. ユースアクション全国版** タスクチームを作り、各地のユースグループ（YMCA ユース、学校、学生YMCA、その他のサークルなど）へのプロジェクト参加募集をします。自分の地域のユースにこの事業を紹介したり、知っているユースグループに声をかけたり、話し合いをしたりしてください。

**目標2. ユースアクション北海道、学生YMCA 版** 上のかかわり方と同様ですが、特別に北海道での2つか3つのYMCA（クラブ）で出来る事を検討したり、応援したりする人たちを求めています。さらに、いくつかの学Yにも声をかけてください。

**目標3. 福島市、長野市、松本市などにYMCA を** これらの都市にYMCA 活動をということに関心のある人を紹介してください。これらの地域の活動に関わりたい人もぜひ。

**目標4. クラブライフを良くする工夫を** これは各クラブで工夫して、部で意見交換をし、新しい取り組みなどを分かち合ってください。いくつかのクラブが協力して一つの活動を生み出す工夫など、話し合ってください。

**目標5. ファンドレイジング強化** ユースアクションなど具体的な活動を支えるファンドレイジングを区レベルで、そして各クラブでもぜひ進めてください。

**目標 6. 国際・交流事業の具体的展開を** 主に国際・交流事業委員会で検討をし、クラブや個人で関心のある人たちがかかわる仕組みを作れたらと思います。関心ある方、具体的な提案をぜひ。

**目標 7. ユースインターンシップ(iGo)の具体化を** 関心のある人たちが、タスクチームを組んでいくつかの事例を生み出せればと思います。関心のある方、受け入れ可能なクラブや YMCA、歓迎です。

**目標 8. 将来構想検討会（仮称）** ワイズの未来（10 年後の姿）を考えたい方、アイデアを持っている方、こんなことができないかと思う方、ぜひ委員会（チーム）にご参加ください。関心ある方は、まとめ役の田中博之ワイズ（東京多摩スマイルクラブ）へ 7 月末までにご連絡ください。